

情勢報告（平成28年11月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

施設ニラの冬期増収のために！ —ニラハウスで環境制御機器の設置が始まる—



電照設備の設置状況

11月18日、ニラ栽培ハウスに電照設備の設置が始まりました。今年度は新たに5戸、1.6haの導入計画があり、順次設置していきます。導入時には照度を測定し、ハウスの軒高に応じて電照の設置位置を調整しました。導入農家は「冬期の出荷量を増やしたい」「品質の高いニラを生産したい」と期待をしています。12月には環境測定機器も設置され、ハウス内環境が把握できるようになります。

これからも普及所はJAと連携して実証ほを設置し、電照光源色の違いによる影響や各ほ場の照度調査、測定データの解析を行い、より効果的な栽培技術の検討と普及を進めていきます。

仁淀川流域茶の販売拡大のために —茶の魅力の伝え方を実習！—



接客ロールプレイングによる
店員と客との説明実習

11月8日、当普及所において仁淀川流域茶産地振興協議会の販売促進のための4回目になる勉強会を開催し、茶生産者やJA職員など8名が参加しました。

中村雅子氏による講義では、接客時の注意点および正確で判りやすい情報の伝達方法について説明がありました。接客では身だしなみ、態度、動作に注意を払うこと、また、接客のロールプレイングを行い、店員と客の立場となって、客の疑問に対して商品説明をする方法を実習しました。最終の5回目には実際に販売を行う研修を予定しています。

普及所では、勉強会の内容について、講師や協議会事務局と調整し、茶の販売拡大に向けた支援を行っていきます。

郷土料理を伝える —仁淀川町の農漁村女性グループが小学生と講習会を開催—



初めてのこんにゃくづくり

10月25日、仁淀川地区農漁村女性グループ研究会が、同町の長者小学校、別府小学校5、6年生29名を対象に、地域の伝統料理講習会を開催しました。当日は、こんにゃく、いりもち、ちらし寿司の3グループに別れて、グループ員が作り方を教え、試食も行いました。

グループ員からは「おいしく食べてもらってうれしい。これからも作ってほしい」、児童からは「おいしかった。仁淀川町が好きだから、家でも作ってみる」といった感想が聞かれました。

普及所では、講習会の計画段階から参画し、参加呼びかけや準備、実施等の運営にかかわりました。これからも、このような伝統料理の継承事業に尽力していきます。

イチゴのハダニ対策への取り組み ―新しい天敵の利用方法を実証―



畝上に設置したバンカーシート

イチゴ栽培ではハダニ対策が重要な課題です。管内ではハダニの天敵であるカブリダニ類を用いた防除に取り組んでおり、現在、本圃内で紙箱の中に天敵のミヤコカブリダニとその餌、産卵場所となるシートが入った「バンカーシート」の利用方法を佐川町内で実証・検討しています。

これまで育苗期にはカブリダニ類に影響のある殺菌剤を使用するため、天敵が利用できませんでしたが、バンカーシートは殺菌剤を使用する環境でも天敵を利用するために有効であることがわかりました。

普及所では、今後も引き続き本圃での利用について実証・検討していきます。

今年も田村カブの季節がやってきました



田村カブの生育状況

11月に入り冷え込みも厳しくなってきました。仁淀川町では今年も田村カブの栽培が始まっています。今年は9月の長雨のため、昨年よりやや作期が遅れていますが、天候の回復、気温低下とともにカブも大きく生長してきています。今年も田村蕪株式会社プロジェクトによる蕪主募集が始まっており、12～1月には県内のレストランなどで飲食フェアが予定されています。

普及所では、栽培希望者への指導など安定生産のための支援を継続していきます。